

生命の旅路

(昭和二十年竊歌)

幸坂彪君 作歌

——輝かしき首途のときに——

新井忠雄君 作曲

一
流転永世の旅衣

四大の神秘尋はんにも

若き生命の寂寥に

遠き真理の暁星一つ

起伏知らに慕ひゆく

孤影簫々の荒野に消えぬ

二

清き友情を先人の

忍苦染み映ゆ楡に枝に

懸けて団欒す一刻の

玻璃が盃の面茜雲漂蕩ぎ

胸琴触れ合唱ふうつそみの

塵世の濁流ひた超えて

三

寮窓辺に泣くや人性の

運命の羈絆固ければ

愛と誠に身をせめつ

高謳ふ哉美し青春の

剛毅の蔭の淨涙をば

白珠碗に掬ばなむ

四

秋闌く原始林のうら寂びて

愛智の微光凄風に散り

孤独の揺籃に熟睡する

寮友が睫に恵迪の

伝統の法燈さゆらぎて

栄光に帆立つ吾寮いま

五

生命の旅路厳肅の

啓示に喘ぐ友垣と

若き恩恵の聖火に狂ひ

淋しき魂を睦ぶとき

挽歌消え行き洋々の

自由の渚濤声とよむ